



# 敬和学園大学

Ustream ほか

## SNS 時代の“発信者”として 必要な力を持つ学生を育成する

敬和学園大学の戸信哉准教授は、SNS を通して情報の受信・発信の総合的なスキルを学生に身に付けさせようとしている。情報の価値を判断し、役立つ情報を発信できる人材の育成が目的だ。

取材協力：敬和学園大学 戸信哉准教授

※画像は「敬和×日報 News ナビ」「Keiwa Lunch」フェイスブックページから転載

### PROFILE

#### 関与・運営している さまざまな SNS

- Keiwa Lunch <Ustream> 毎週水曜日の昼休みに一戸ゼミの学生を中心としたメンバーが配信する生放送番組
- 敬和×日報 Newsナビ <Ustream> Keiwa Lunchのスピリアウト番組。新潟日報の記者と学生が県内のニュースを題材にして語り合う生放送番組
- 国際ダンスサークル<Facebookページ> K-POPなど外国の曲を使ってダンスを練習するサークルが、情報発信を通して学外にも活動の範囲を広げている
- Keiwastagram <Instagram> スマートフォンのアプリ「Instagram」を使って敬和学園大学の学生が写真を投稿、公開する全学的プロジェクト

メディアだ、という感覚を持ってほしいと日頃から授業で教えています。

#### 人や社会とつながり 総合的なスキルを磨く

— 一戸ゼミの学生が中心となり、Ustream番組を放送しているとうかがいました。

— 「情報メディアを生かして活動し、人や社会とつながる」をゼミ活動の目標とし、新潟県を代表する動画コンテンツをつくりたいと考えています。2009年から始めたのが「Keiwa Lunch」という30分の生放送番組で、主に本学の学生、教職員をゲストに迎え、インタビューを通して大学の個性を外部に発信しています。当初はきちんと放送できることが目標でしたが、学生のスキルが向上した今では、台本をつくり、進行をきちんと決めて番組の質を高めることを心掛けています。

この取り組みの狙いは、内輪受けではない情報発信について学ぶことです。過不足ない情報を、相手を引きつ

ける話し方で伝える能力を学生に培ってほしいと考えています。外部への発信を通して、学外からの注目も集まるだろうと考えました。

— 学外からの反響はありますか。

— 一戸 地元の新聞社の新潟日報から声を掛けていただいて、これもUstreamで「敬和×日報Newsナビ」という番組が始まりました。Keiwa Lunchのメンバーと新潟日報の記者が、県内のニュース記事を題材に質疑を通して理解を深める番組です。地元FM局の番組のMCにもKeiwa Lunchのメンバーが抜擢されました。街で、「Keiwa Lunchの学生さんだよ」と声を掛けてくれる方もいます。互いの顔が見えやすい地方の大学ならではの良さかもしれません。

— 正課外の活動でもSNSを取り入れているとお聞きしています。

— 一戸 私が顧問を務める国際ダンスサークルもフェイスブックやツイッターで活動内容を発信しています。SNSを通して地域とのつながりを強め、自分たちの活動の場を広げています。

— 全学規模では、「Keiwastagram」というプロジェクトがあります。学生が画像共有アプリを使って大学の風景

や自分たちの日常を撮影し、わかりやすいコメントをつけて共有することにより、学内外でのコミュニケーションの活性化を図っています。

— 学生はSNSの運用能力以外で、どのような力を付けるのでしょうか。

— 一戸 「読む」「聞く」「話す」など、情報発信・受信の総合力が向上します。加えて、取材や出演交渉、番組出演などを通してコミュニケーションスキルも磨かれます。また、社会人と接する機会には、社会人はどんな仕事をして何を考えているのかを知ることができます。加えて地元企業の方には、学生のこれらのスキルを知ってもらいたいチャンスです。

#### 学生の視点に期待！ 今後の情報発信の工夫

— 今後に向けた課題はありますか。

— 一戸 意欲的に参加する学生を増やすことです。学生は飽きやすく、即効性を求めます。情報発信をしたらすぐに反応が返ってくることを期待しがちですが、そう簡単にはいきません。それでも「面白そうだから、自分の時間を



Keiwa Lunchのメンバーは企業への取材も行う。ものづくりの現場取材し、4分の動画に編集して発信。

投資してみよう」と思ってもらえる取り組みにしたいですね。

— スタート当初は、学生がUstreamで情報を発信しているというだけで注目してもらえましたが、今は情報の伝え方を工夫していかなければならないと思っています。中には動画ではなく、テキスト配信を望む人もいます。30分ではなく、もっと短い動画のほうが効果的かもしれません。こうした新たな視点が学生から生まれてくることを期待しています。

— 敬和学園大学はリベラルアーツ教育を特色とし、アクティブラーニングに力を入れています。SNSを使って総合的な情報発信・受信力を高める取り組みは、本学の教育と親和性が高いと考えています。

#### 誰かの役に立つ情報の 発信こそが SNS の価値

— どのような狙いでSNSを教育に導入されたのでしょうか。

— 一戸 インターネットの面白さの一つは、新聞やテレビと違って、「情報が誰にも格付けされていない状態で流通している」ことにあります。こうした“ごった煮”の状態から興味のある情

報を発見し、それを自分で評価するスキルと、責任を持って発信するスキルを身に付けさせたいと考えました。

— SNSは、公的な言論空間とプライベートなコミュニケーションの空間が分断されていません。多くの学生は後者ばかりを意識しがちで、日々の出来事をつぶやく程度です。しかし、自ら面白いと評価した情報を、公的な言論空間で多くの人と共有することがSNSの価値ではないでしょうか。学生には、SNSは誰かの役に立つ情報を発信する



2013年6月に始まった「敬和×日報 News ナビ」。月に2本以上のペースで番組を配信している。

#### プロの眼 (株)リピート代表取締役 前澤太郎

— SNSは「自分が何者か」を他者に伝えるツールだ。個人の能力が評価される現代において、SNSはポートフォリオの役割を果たしている。その人がどういったネットワークを持ち、どういう情報を発信し、何に共感しているかといったことがわかるからだ。SNSで発信する内容、情報の発信・受信の振る舞いは、今や大学に身に付けるべきス

— キルの一つと言える。大学にとって最大の成果物である学生や卒業生がいきいきと活動している姿の効果的な発信は、意識すべき広報のポイントだ。画像共有アプリを使ったKeiwastagramは、他者に向けた情報発信のあり方の教育と、いきいきとした学生の姿を発信することの両立に成功していると言える。



Keiwastagramの優秀作品ポスターを学内に掲示している。